

2021.10.16 菊池寛『形』第1回討論のまとめと予告

○参加者

【Zoom】佐野之人、楯谷智子、田中克典、奈原伸雄、(司会:村上林造)

【西田旧宅】桑原理恵、行武 要、篠原誠司(明孚=めいふ)、岡部昌平

■第1回論題:中村新兵衛の真の実力をどう考えるか

菊池寛「形」の第1回読書会では、「中村新兵衛の真の実力をどう考えるか」という問いかけに基づいて議論していただきました。私の理解に従って整理させて頂ければ、大体次のようなご意見であったかと思えます。

- ①鍛錬と体力による実力のほかに、度量の大きさなど人間的な大きさも実力である。
- ②実力を武技、技能という客観的なものとし、慢心等の主観的側面とは区別して考えたい。
- ③実力には、形と対立する狭義の実力のほかに、形と実力を併せた広義の実力がある。
- ④実力があるとかないとかということはなく、すべては形である。
- ⑤実力には、カタチ（外見）をプラスマイナスされたハロー効果としての実力がある。
- ⑥中村新兵衛本人の実力と、敵から見た彼の実力は違うのではないか。
- ⑦実力が全て形にまとめられるなら、確かに形を離れた実力はない。
- ⑧実力は形に応じて時間の中で変化するものではないか。

■第2回論題:この小説から、人間における「形」をどのようなものと考えるか

第1回「形」読書会では新兵衛の実力について活発な議論を頂き、おかげで「実力」とは何かについて視野を広げ、理解を深めることができました。有難うございました。

さて、小説「形」では、羽織と兜を身につけた新兵衛が百戦百勝だったのに対し、それを失った彼は雑兵に突き殺されてしまいます。これを素直に読めば、主人公新兵衛の強さの要因は彼の実力でなく、実は彼の形（羽織と兜）だったと解釈することができます。ここからはごく自然に、形こそがすべてであり、実力というものは無いという見方が導かれて来るようにも思われます。しかし果たして、読者としてその解釈に納得できるのかどうか、あるいはそもそも人間における形とはいったいどういうものなのか、これについて次回の読書会で考えていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

■文学読書会 今後の予定

11月13日(土)13:30～西田文学読書会(第5回)13:30～「形」第2回討論

11月29日(月)「形」レポート締切り その後、西田読書会のHPに掲載

12月11日(土)13:30～西田文学読書会(第6回)13:30～作品未定